

患者さんインタビュー-21 Sさん 親知らずを生かし、健康な歯で再構築!

インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページでご覧ください。

◆矯正装置は痛かったですか。
——ワイヤーをつけてから2、3日は違和感がありました。痛みは強い体質なのか、予想していたほどではありませんでした。治療終了後の歯並びの完成予想モデルを最初に見せてもらって、「こんなにきれいな歯並びになれるなら」という気持ちもあつたので、耐えられました。

◆初診の印象はいかがでしたか。
——すぐにワイヤーをつけて矯正治療を始めるのかなと思っていましたが、「歯が重なって磨きづらい部分に歯石がたまり、歯茎もはれて歯周病になっているので、そこを改善してから治療を始めましょう」と言われ、患者さんの歯の事を真剣に考えてくれる医院を選んで良かったと思います。初診の日に「先生におまかせします」という気持ちになりました。

◆矯正治療を受けようと思ったきっかけを教えてください。
——小さいころから、でこぼこの歯並びにコンプレックスがあつたので、矯正治療に踏み切る勇気がなくてのばしのばしにしています。社会人になってから、笑うときに無意識に歯を隠していることが多く、相手に失礼かなと思うようになり決意しました。



◆治療が終わって、いかがですか。
——装置が取れたときに鏡を見て口をいって横に開いてみると、以前の歯並びからは想像できなかった(笑)、歯の重なりがなくなっていました(笑)、素直にうれしかったです。人と話すときも、口を隠すことはなくなりました。大人になってから、覚悟を決めて矯正治療に臨む決意をして、いいことも悪いことも何でも親身に話してくれる先生と出会えたのはとてもラッキーでした。先生を信頼し、すべてをゆだねる感じだったので、「治療がづらい」と思った事もなかったし、「早く治療が終わらないかな」という焦りも全くありませんでした。

◆治療が終わって、いかがですか。
——装置が取れたときに鏡を見て口をいって横に開いてみると、以前の歯並びからは想像できなかった(笑)、歯の重なりがなくなっていました(笑)、素直にうれしかったです。人と話すときも、口を隠すことはなくなりました。大人になってから、覚悟を決めて矯正治療に臨む決意をして、いいことも悪いことも何でも親身に話してくれる先生と出会えたのはとてもラッキーでした。先生を信頼し、すべてをゆだねる感じだったので、「治療がづらい」と思った事もなかったし、「早く治療が終わらないかな」という焦りも全くありませんでした。

◆治療が終わって、いかがですか。
——装置が取れたときに鏡を見て口をいって横に開いてみると、以前の歯並びからは想像できなかった(笑)、歯の重なりがなくなっていました(笑)、素直にうれしかったです。人と話すときも、口を隠すことはなくなりました。大人になってから、覚悟を決めて矯正治療に臨む決意をして、いいことも悪いことも何でも親身に話してくれる先生と出会えたのはとてもラッキーでした。先生を信頼し、すべてをゆだねる感じだったので、「治療がづらい」と思った事もなかったし、「早く治療が終わらないかな」という焦りも全くありませんでした。

◆治療が終わって、いかがですか。
——装置が取れたときに鏡を見て口をいって横に開いてみると、以前の歯並びからは想像できなかった(笑)、歯の重なりがなくなっていました(笑)、素直にうれしかったです。人と話すときも、口を隠すことはなくなりました。大人になってから、覚悟を決めて矯正治療に臨む決意をして、いいことも悪いことも何でも親身に話してくれる先生と出会えたのはとてもラッキーでした。先生を信頼し、すべてをゆだねる感じだったので、「治療がづらい」と思った事もなかったし、「早く治療が終わらないかな」という焦りも全くありませんでした。

◆治療が終わって、いかがですか。
——装置が取れたときに鏡を見て口をいって横に開いてみると、以前の歯並びからは想像できなかった(笑)、歯の重なりがなくなっていました(笑)、素直にうれしかったです。人と話すときも、口を隠すことはなくなりました。大人になってから、覚悟を決めて矯正治療に臨む決意をして、いいことも悪いことも何でも親身に話してくれる先生と出会えたのはとてもラッキーでした。先生を信頼し、すべてをゆだねる感じだったので、「治療がづらい」と思った事もなかったし、「早く治療が終わらないかな」という焦りも全くありませんでした。

初診時

歯肉が全体に腫脹し発赤(赤くはれている状態)しており口腔衛生状態不良による歯肉炎を認め、下顎前歯唇側には多量の歯石付着を認めます。

初期治療後

初期治療後、磨き残しの減少を確認。矯正治療中もリスクが再度上見する可能性が高いので毎回ワイヤーを外し全顎のバイオフィルム除去を行う事とした。

親知らず(右下8番)の経過

左より治療開始1ヵ月後・14ヵ月後・24ヵ月後・30ヵ月後

- 【1ヵ月後】 動的治療中に右下6番を抜歯
- 【14ヵ月後】 7番が前方に移動してきた事で8番が徐々に萌出
- 【24ヵ月後】 8番に装置を装着可能となり、歯の移動を開始
- 【30ヵ月後】 8番は7番の位置まで移動した

動的治療終了後

歯周病のトータルリスクは初診時の7→4に減少。初期治療および矯正治療中のメインテナンスにより歯周ポケットが減少した事等が要因と考えられる。

Sさんの症状について解説します

●初診時の診断:「中立咬合 両突歯列 叢生歯列 下後退顎」

Sさんは、右上6番、左下6番をむし歯により抜歯しているため、非対称な臼歯関係でした。歯の本数が抜歯により減少しているものの顎骨に対して歯が大きい事で歯が並びきらず叢生になっていました。

治療方針は、すでに失ってしまった歯や将来的に長く持たないと思われる歯が存在したため、上顎右側、下顎左側は7番を6番の代わりにし、下顎右側は6番の根管治療が不十分で根分岐部病変(難治性の歯根周囲の炎症)も認め将来的に抜歯となる可能性が高いので、6番を抜歯して7番を代用し、埋伏している8番を7番の位置に移動して並べる事としました。矯正治療開始前に、徹底した PMTC (歯科衛生士による歯面クリーニング)、スクレーピングによる歯石除去などの初期治療を行い、治療を開始しました。

治療結果は、抜歯スペースは閉鎖され、咬合平面は平坦化、上下歯列の正中は一致し、上下の歯がバランスよく噛めるようになりました。水平埋伏していた右下8番もきちんと並べる事が出来ました。